

三年国語 「活用のない付属語(助詞) 学習の手引き①解答編

*まずはP81のハルとアキの会話文を読みましょう。

○次の二つの文の意味は、どう違うだろうか。

ア、ナツさんは遠くから自転車で登校している。

↓ 「遠くから」でどこから来るのか、動作の起点を示している。

イ、ナツさんは遠いから自転車で登校している。

↓ 「遠いから」で動作の原因・理由を示している。

↓二つの文はそれぞれ意味が違います。それは二つの文の「から」が違う種類の助詞だと考えられるからです。

*P237の助詞の役割を見て、やってみよう。

考えよう



(1) 外は寒い から ここにいよう。 ↓ 話し手の居場所は「から」↓「中」、
けれども ここにいよう。 「けれども」↓「外」になる。

(2) アキ に 話す。 ↓ 話す人は「に」のとき↓「アキ以外の人」、
が 話す。 「が」のとき、↓「アキ」になる。

(3) ハルに だけ 話す。 ↓ 話す相手は「だけ」のとき↓「ハル一人」、
も 話す。 「も」のとき↓「ハルの他にもいる」ことになる。

(4) ここでは歌を歌う な。 ↓ 「な」のときは、歌は歌えない【禁止】、
ぞ。 「ぞ」のときは、歌を歌う【強調】。

↓どのような助詞を使うかで、文の意味は大きく変わる。

助詞には、**文の成分を特徴づけたり、話し手(書き手)の気持ちをはっきりさせたりする役割がある。**

↓助詞は、どのようなところに現れるか、どんな文の成分をつくるか、どのようなはたらきをもつかなどによって、**格助詞・接続助詞・副助詞・終助詞の四つに分類できる。**